

平成 20 年度

第 1 回 芦屋の里浜づくり実行委員会

『里浜づくり事例』

平成 21 年 3 月 8 日

目 次

里浜の活用事例	1
1. 唐津の「里浜づくりへの取り組み」の事例.....	1
2. 方財海岸（宮崎県）の事例.....	4
3. その他の事例.....	6

里浜の活用事例

1. 唐津の「里浜づくりへの取り組み」の事例

(1) 目的

「里浜づくり」というテーマのもとに、各イベントが協力・連携を図り、人と海のふれあいの場や人々が身近に感じられる海辺の空間を創出し、唐津の港や浜の活用・賑わいづくりを推進する。

唐津里浜づくり推進協議会¹が主体となり、活動を行っていく。

(2) 活動内容

- ① 浜辺の清掃活動
- ② 鳥島を語ろう会による春・秋の弁財天まつり
- ③ 里浜推進協議会による遊歩道砂除去
- ④ 唐津観光協会による海開き、閉じ式
- ⑤ 春、夏、秋に開催される西の浜トライアスロン、虹の松原トライアスロン、唐津デュアスロン大会
- ⑥ ヨット競技
- ⑦ 唐津港まつりカーニバル in 唐津
- ⑧ 唐津市民花火大会
- ⑨ 唐津湾イカダ大会、西の浜ビーチフラッグ大会、唐津海上運動会
- ⑩ 汽笛一斉吹鳴
- ⑪ NPO 法人唐津海遊浪漫
- ⑫ 海遊キッズクラブ

(3) 活動から得られたこと

- ・ 自分たちのまち、自然環境に関心を持ち、目を向け、関わりをもち実働すること、海岸・砂浜を守る、活性化させることは、**市民の役割**である。
- ・ NPO と行政が**協働**して活動をサポートすることが不可欠である。
- ・ 仲間の拡大、子供の参加など、里浜づくりで“**ひとつづくり**”が最も重要である。
- ・ 海浜などの自然環境保全と、暮らしにおける利便性・安全性には、**バランス感覚**が重要である。

¹ 唐津里浜づくり推進協議会会員：「火陶祭 in 西の浜」実行委員会・唐津海上運動会実行委員会・唐津海遊浪漫都市構想WG・唐津海遊浪漫北京チャレンジサポーターズ2008人委員会・唐津港振興会・唐津市・唐津市漁業協同組合・唐津シーカヤッククラブ・唐津商工会議所・唐津地区小型船安全協会・唐津海と海洋スポーツを考える会・唐津港太鼓・唐津湾市民とイカダの会・佐賀県ヨット連盟・佐賀新聞社唐津支社・鳥島を語ろう会・西の浜里浜づくりの会・西の浜をきれいにしゅう会・虹ノ松原トライアスロン実行委員会・その他賛助会員

<4月 弁財天祭り>



<4月 遊歩道砂除去清掃活動>



<4月 海・浜開き式>



<4月 アクアスロン>



<6月 ラブアース・クリーンアップ>



<6月 トライアスロン>



<7月 海のカーニバル>



<7月 海のカーニバル>



<7月 海のカーニバル>



<7月 イカダ大会>



<8月 海上運動会>



<唐津港太鼓>



<ヨットレース>



<唐津小型船舶協会>



<西の浜をきれいにしゅう会>



<海遊キッズクラブ>



出典) 唐津里浜づくり推進協議会 <http://blog.canpan.info/satohama/>

2. 方財海岸（宮崎県）の事例

出典) 里浜づくりネットワーク準備会 HP

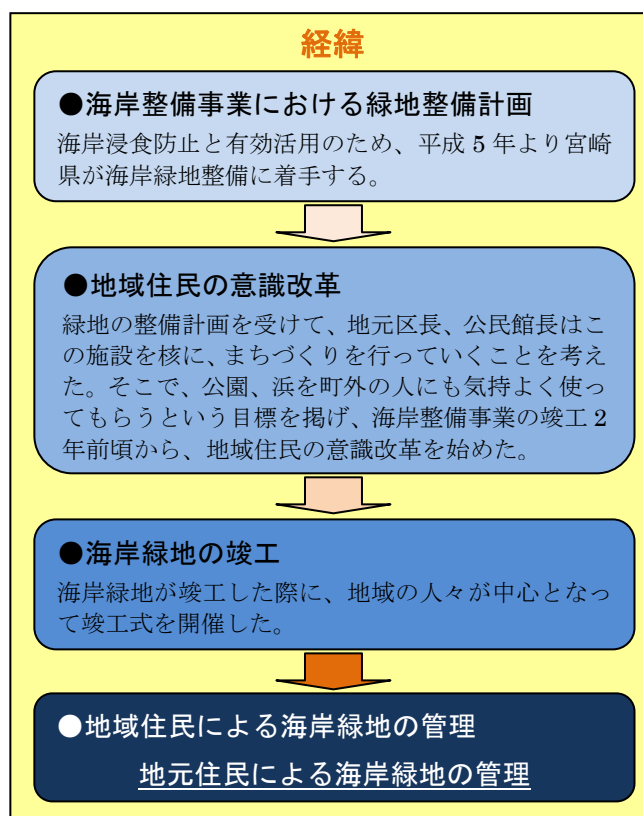
(<http://www.satohama.net/>)

(1) 方財海岸の位置図



(2) 方財海岸に里浜づくりのきっかけ

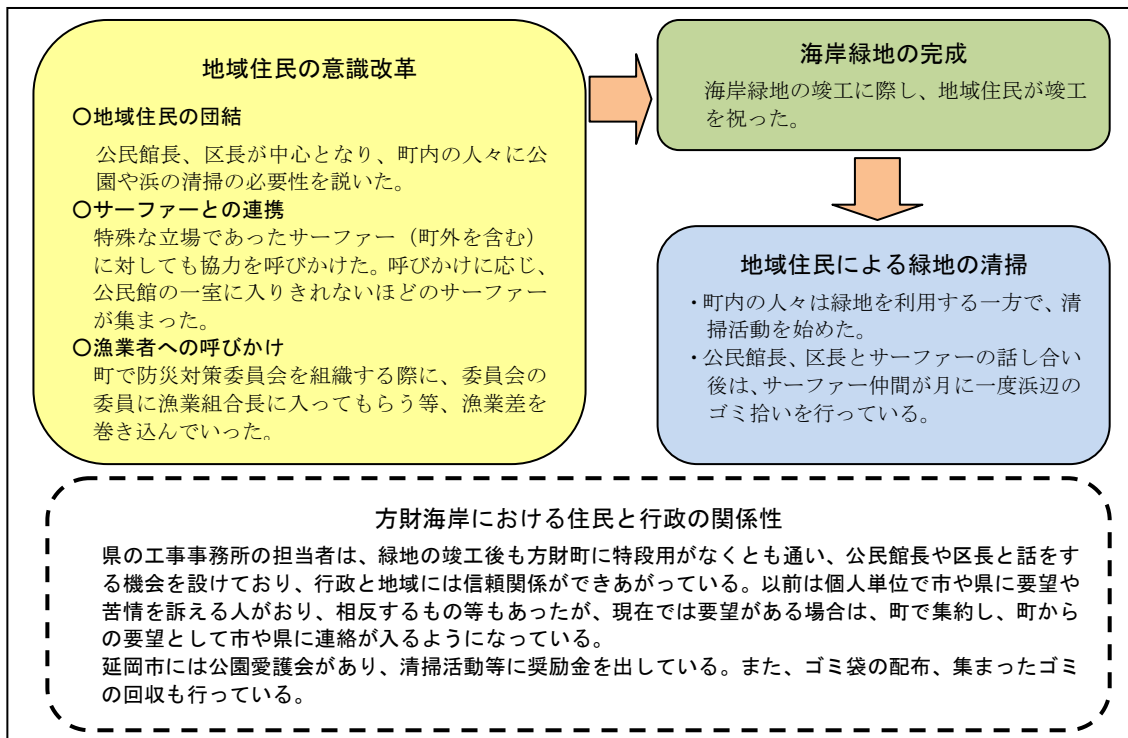
- 海岸整備事業(平成 5 年着工、平成 14 竣工)では方財町の海岸 880m に、階段護岸を整備。緑地、トイレ、あずまや、パーゴラ等を設置。
- 方財町は川と海で囲まれており、(方財島と呼ばれていた)限られた土地には外から人々が来ることは余りなかった。
- 地元区長、公民館長は町→区→組、といった縦のつながり、婦人会等の縦のつながりを利用し、海岸緑地を中心としたまち作りに取り組むことを啓蒙した。



・キーワード

緑地整備をきっかけとしたまち作り、地域住民のまとまり

海岸を我が町の一部とする意識



方財海岸里浜づくり推進協議会が主体となる。

(3) 方財海岸における里浜づくりのポイント

1. 地元の結びつきが強い

- 島状の限られた土地であることもあり、海岸に対しても自らの町の一部であるという意識が強く、新たに整備された海岸緑地を自ら管理していこうとする意識がある。
- 地域には縦横のつながりがあり、その中心となる区長、公民館長、漁業組合長がその縦横のつながりを活かして、地元をまとめている。

2. 地元と行政の間に信頼関係がある

- 県の工事事務所の担当者が地元との関係を大切にし、地元の声に耳を傾けていることから、地元も行政を信頼している。
- 地元の人々の意見を、地元でまとめており、行政に対する要望等がスムーズに行われている。
- 地元公民館に、県が緑地の整備を行う際に収集した資料が提供されているなど、行政からも情報が提供されている。

● 現状での問題点

- 方財海岸はウミガメの産卵地となっているが、整備した海岸護岸がウミガメの産卵の障害となっている。
- 毎年大量の木材や葦、竹などが海岸に流れ着く。現在は県の単費で処理しているが重責である。

・キーワード

地元の結びつき、信頼関係の構築、海岸に対する意識、情報交換

3. その他の事例

〈できることからはじめ、活動を継続している事例：琴引浜の例〉

琴引浜は、「日本の渚百選」「残したい日本の音風景百選」に選定されている、日本を代表する白砂青松の海岸である。ここに、琴引き浜の鳴り砂を守る人々がいる。鳴き砂とは砂の粒子の大きさや純度により、踏むと「キュッキュッ」となる砂のことである。琴引浜の鳴き砂を守る活動は、20年前、地域の数人の人々が、月1回ゴミを拾おうというところから始まった。現在では、活動が始まった時には子どもであった人が中心になり、活動に賛同してくれるミュージシャンとともに、海辺で拾ったゴミを入場券代わりにした音楽祭「はだしのコンサート」を開催したり、全国鳴き砂サミットを開催したり、鳴き砂を守る仲間を拡大し、情報を発信し続けている。



琴引浜

《活動内容》

- ・ 海岸での喫煙、花火、キャンプ、炊飯の禁止等の規制を行う条例の制定。環境保護団体の認定及び当該団体によるパトロール
- ・ 「はだしのコンサート」の開催（上述）
- ・ 「クリーンビーチカップ」（日本プロサーフィン大会）を実施（デポジット制の採用、環境保全に配慮し、環境保護と地域振興がねらい）

〈志を同じくする人々の募金で活動する事例：はかたの夢松原の会の例〉

NPO 法人はかたの夢松原の会は、昔は松原のあった博多湾の随所に、毎年平均 1000 本ずつの植樹を続ける団体である。

活動は、1987 年から始まり、活動に賛同する人々による募金「松苗募金」により活動資金を募り、活動を行っている。今では全国から募金が集まる。また、玄界灘や響灘の沿岸に今なお残る白砂青松の美しい風景を守り、自然・歴史・文化を生かした「まちづくり」を進めたいという願いを共有する 10 の団体とともに、「沿岸松原サミット」を平成 10 年以降毎年開催し、情報を広く発信し続けている。サントリー財団などからも資金援助を得るなど、賛同者を増やしている。



松苗植樹（海ノ中道海浜公園）

《活動内容》

- ・ 毎年 1000 本の植樹
- ・ 「ともに語ろう海と文化」検討会の開催
- ・ 「船上フォーラム・博多湾一周」の開催
- ・ 「沿岸松原サミット」の開催

〈異なる立場の人々が議論し、里浜活動を実施している事例：中



大新田地区の干潟

津港海岸の例)

水辺に遊ぶ会は、平成11年に設立され、昔の海と人との関係を取り戻すことをコンセプトに、中津港海岸で自然観察会、干潟生物の学術調査、学校での環境学習の手伝いなどの活動を行っている。現在では年間三千人の人々が活動に参加している。

一方でその活動の舞台である干潟を覆砂する計画が持ち上がった。これに対する各種団体の要望に答えて行政により懇談会が設置され、水辺に遊ぶ会を含め、地域住民、自然保護団体、行政、専門家が一同に会して検討が行われた。侵食防止の観点から干潟の被覆を主張する側と貴重な干潟の保存を望む側で、頻繁に対話を行い、現在、防護と自然保護の両面から検討した計画案が実施に移されようとしている。こうした過程において、立場を異にする人々が互いにその価値観を認め合い、意見を交換することで、活動の幅が広がり、仲間を増やすことに繋がった。

《活動内容》

- ・中津港大新田地区環境整備懇談会 大新田地区環境整備協議会
- ・干潟観察会、ビーチクリーン（水辺に遊ぶ会）
- ・松の植林（地元小学校のPTA）

〈地域の人々が目の前の浜の清掃を始めた事例：方財海岸の例〉

方財町は四方を海に囲まれている。そのため周囲の海を「我々のもの」と考える意識が古来より強い。その海岸に緑地を整備することになった。緑地が出来てから「活用してください」、「管理にご協力ください」と言われても、なかなか区民は理解出来ないだろうということから、公民館や区会は、海岸緑地の竣工4年前から行政各部署と説明会を開催し、海岸緑地を核にしたまちづくりの体制を整えた。竣工後の現在は、イベントなどで利用するほか、町全体で清掃活動を行っている。また、町外からの利用者にも清掃活動を呼びかけており、サーフィンを楽しみに来る団体も清掃活動に参加している。現在は、こうした海と地域の繋がりをさらに深めるため、各種イベントを開催している。



《活動内容》

- ・海岸清掃
- ・小中学校のちりめん漁の体験学習・ちりめん漁講話の開催
- ・ビーチバレー大会の開催 海岸での盆踊り大会の開催
- ・小学校、幼稚園における海岸での砂の造形学

〈観光と結びつけ、アクションを起こした事例：奈半利海岸の例〉

海岸事業により整備された離岸堤に珊瑚が着生した。この珊瑚の貴重性を再発見が、高知から奈半利町までの後免奈半利線の開通を背景に、奈半利町で高まりつつあった観光事業への意識と結びついた。従来より奈半利町周辺で活動をおこなっていた各種民間団体は地元の魅力を再発見・活用するというコンセプトのもと再結集し、天然資源活用委員会を設立。珊瑚鑑賞イベントを手始めに活動を開始した。珊瑚鑑賞イベントは、ボートの購入から運行まで、全てメンバーがボランティア行っていたが、少子高齢化や過疎の問題に対応する雇用機会を増大するという目的も含め、事業化されている。



《活動内容》

- ・珊瑚ウォッチングイベント開催
- ・「地域みんなで考えよう」シンポジウム
- ・珊瑚観光事業